

## 国分寺市図書館運営協議会 第6期第6回定例会要点記録

日時 平成 29 年 12 月 19 日(火) 午前 9 時 30 分から 11 時 30 分  
場所 ひかりプラザ 501 号室  
欠席 2 人 傍聴 4 人

会長：これまで答申に向けた作業というのを進めてきて、今回はヒアリングをする中では最後の項目である。市立図書館の状況、学校図書館の状況というかたちで進めていく。今回は地域で活動する地域文庫あるいは家庭文庫の状況ということで、みなさんにお話をいただいて、みなさんの方から質問をいただき、現状がどのようなものなのか、今抱えているのがどういう問題なのかということを中心に進めていく。

委員：それでは地域文庫・家庭文庫の現状、読み聞かせの現状について述べさせていただきます。国分寺市は地域文庫・家庭文庫あわせて9グループあると思う。もともとは本を貸出したり交換したりする活動を文庫という。国分寺の中では本の貸出を行っている3つの文庫があり、個人の家を開放して行われる「赤ちゃん文庫」と「はらっぱ文庫」、そして「東元町文庫」の3つがある。その他に本多図書館でお話会を行っている「おはなしポケット」と並木図書館で行っている「おはなしのくにピッピ」というグループがある。また「おはなしの会でんでんだいこ」、「お話の会とんことり」、「おはなしトレイン」、「絵本お楽しみ会」など合わせて9グループある。実績だが、長期継続のグループがたくさんあり、地域に根付いた活動をしている。図書館と共催で講習会やおはなし会を企画して運営しているグループや、東京都と国分寺市から青少年育成で表彰されたグループもある。課題としては、参加者が低年齢化しており主催者側の対応もいろいろ求められている。会を継続していくためにはいい形で次の代にバトンタッチしていきたいと思っているが、若い人の参加が少ないため難しくなっている。また活動するスタッフの高齢化が問題になっている。

次に市立図書館との連携と課題について述べる。各図書館の児童書担当職員がそれに対応している。委託業務になっても現在の協力関係は保ってほしい。またスタッフ育成講座などを行い後継者育成について一緒に考えてほしい。職員の異動があるが、今まで関係していたことが途切れず引き継いでいただきたいと思う。図書館主催のおはなし会に協力員として参加できるシステムを作っていただきたい。学校との連携だが、それぞれのグループで学校と関わっており、おはなし会の内容もそれぞれが独自の内容で行っている。地域の学校で継続することによって子どもや先生とのつながりがより親近感が持てたという感想もあった。課題だが、学校に出向く場合先生と担当の連携がうまくいかない場合があつて、先生も忙しいので打ち合わせに時間をかけられないということもあり、おはなし会の内容も会の側に任せられているということがある。それが授業の内容でどうだったか、子どもたちがどの

ように感じたか先生の側から少し聞かせていただいたらよいが、なかなかそこまで行き着かない。次に都立図書館との連携で考えられることでアンケートをとったら様々な意見が出てきた。絵本、読書、読み聞かせ、文庫活動にかかわる読み聞かせで講師派遣はとても嬉しいという意見があった。また、親子で交流する場合や親の講座などでのわらべうたで協力することができるという意見があった。それ以外に、本好きの子どもが継続的に集まれる場をつくってほしいという意見もあった。以上になるが、地域に関わっているこのようなグループというのはただ本を読んだりとか建物の中にいた子どもたちが集まる場所というのではなくて、人と人が交流する場、そこが原点になっている。その中で、子どもたちが大人とどのように関わるのか、子ども同士でどのように関わるのかという人と人との関係がすごく重要視される場所である。

会長：質問をどうぞ。

委員：44年という活動の歴史は長い。

委員：現在中心になって活動している方が、お母さんに教わって現在も変わりながら継続しているので、世代交代して続いている。

委員：来ている子どもの状況というのはどのようなものか。

委員：昔も今も変わらないが、子どもは本が好きでこの場所が好きなので、居て楽しかった、また来ようというつながりできているのかなと思う。

委員：本は文庫自身で購入する場合と借りる場合とその辺はどのようになっているか。

委員：両方ある。文庫は図書館から定期的に借りているので、そのなかで自分が持っておきたい本というのがあるのでそれは購入しているが、図書館がずいぶん貸してくれ助かっている。

委員：図書館で本を選ぶのは、文庫の方々が本を選ぶのか、または職員が選ぶのか。

委員：基本的には文庫の方が選ぶ。

会長：市立図書館と連携というところで、各図書館が特定の図書館とやっているという話があったが、館同士で情報共有などはやっているのか。

課長：児童担当者会議と館長会議というのがあるので、そこで情報交換をしている。

委員：文庫としては年に2回集まりがあり、文庫全体の集まりと図書館の方を交えての連絡会というのがある。

委員：文庫という活動をしているということを知らない子どもたちも多いのかなと考える。図書館と協力をして活動の場を広げていけば、子どもたちもこういう活動をしているということを知ることができると思う。

会長：ありがとうございます。他に質問は。

委員：私は広島出身だが、小学校の頃に文庫というのが近くになく、改めて国分寺では文庫活動がすごく盛んであると知る機会がたくさんあり、本当に素晴らしい活動だと思う。文庫にいらっしゃる親御さんが文庫活動に対する期待というのが変わってきて

た部分があるのか、やはり変わってきていないのかを教えてください。

委員：長い年代の継続なのでそれは変わったと思う。お母さんたちもちょっと子どもを預けて1時間気軽になれる場所というのは大事である。それから、学校で友達つきあいがうまくいかない子が文庫なら大丈夫と来る場合もある。

会長：文庫の主体性を尊重しながら横のつながりだとか行政からの支援だとかもこれからは進めていかないと持続することは難しいということもあるかなと思う。そんな中で、仲立ちをする図書館がどのような役割を果たしていくのかというのは今後の課題になると思う。

会長：文庫と図書館のおはなし会の連携で具体的にどんな連携ができるのか提案があるならば、協力員みたいな形で職員がやるおはなし会をサポートする仕組みづくりだとか、もうひとつは学校での朝読の時間に読み聞かせだとか、そういうような授業に文庫の方が参加できるような仕組みが必要だと思う。その辺の橋渡しは今までやられているか。

課長：日常のおはなし会とは別に、クリスマスとかにスペシャルおはなし会という形で入ってくる部分はあると思う。実例があるので紹介する。

事務局：今週12月22日の午後に並木図書館でスペシャル・クリスマスおはなし会というのを並木図書館でお話しされているおはなしのくにピッピとコラボレーションして行った。夏にもスペシャルおはなし会をやるが、そのときもピッピさんで行う予定である。

事務局：もとまち図書館では東元町文庫と図書館職員と一緒に読み聞かせを行っており、先だっては、2年生に、夏前には1年生に行った。東元町文庫の七夕とクリスマス会で職員が一人行って読み聞かせを毎年行っている。

課長：あとは毎週のおはなし会で、この週は職員で、この週はグループでと週ごとに分担して参加の仕方をしている。

会長：それぞれの図書館でそれぞれの地域文庫とつながりをもってやっていくということは、授業をやるというのはその前の準備だとか結果の反省だとかをふまえると、いろいろな情報交換の機会あるいはコミュニケーションの機会になっていくのではないかと思う。できるだけつながりを持つ意味でも共催や一緒にやるということを進めていくことによりお互いの情報を共有できるのではないかと思うので、継続していただければと思う。

委員：本多図書館で子どもの本に対するリクエストの本の多さを目の当たりにした経験があり、子どもたちの立場になって考えると自分の読みたい本が少しでも多く手に取る機会があるということは大切なことである。たくさんの本に出会うのが本当に大事なことであると考えてるので、文庫と図書館の連携を考えながら、協議会としても文庫の活動が実り多きものになるように答申に盛り込んでいけるといいのではないかと率直に思う。

会長：諮問をいただいた内容がかなり膨らんでいくと思う。これほど文庫活動が活発に行われている多摩地区はそうない。かつて文庫活動はかなりの勢いであちこちであり、それが図書館の建設運動に拍車をかけてきたというところがある。それを乗り越えて今でも文庫活動が続いているという意味は大きいし、これからもこういうものを大事に育てていく必要がある。今、いろんな場面で世代交代が叫ばれているが、文庫の中でも世代交代をどうやって乗り越えていくかというのは大きな課題だと思うので、みんなで知恵を出し合って考えていくことが必要だと思う。今回は家庭文庫・地域文庫の読み聞かせグループの現状ということでお話をいただいて、これを答申でどう生かしていくかというのは今後の協議の中で進めていきたいと思う。それでは、ひとつのプロセスが終わり連携の中の枠組みが理解できたという状況になるので、次に進みたいと思う。

会長：2番目の状況で、答申についてということで事務局の方でまとめ方について示されているのでそれを見ていきたい。

課長：資料6-2で答申の骨子を出している。1月に答申案のまずは手がかりを作り始めて、定例会は2月、5月、8月、10月なので、その翌月に定例会でその案をもんでもいただくという繰り返しをして第9回の定例会で完成の形にして、10回で教育委員会に答申ということで確定できればいいのではないかと考えている。

会長：今後の議論の柱立てというものが6-2の資料の表側のところにある程度まとめられていて、裏側のほうが今後のスケジュールになると思う。それでは、起草委員会の問題だが、いろいろなやり方があるがスケジュールが厳しい中でまとめていかなければならないので、少人数で文章を作りあげて定例会でご審議いただいてというようなことを繰り返していく中で、まとめていくという形が一般的な流れとしてはあると思う。

課長：都立多摩図書館は子どもの本が多い図書館なので、連携というと子どもの本に関わったり、学校に関わったりというような視点が入るといいかなと思う。

会長：それでは協議事項はその2つということで、次は報告事項になる。

委員：おはなしグループの中には高齢化で世代交代がうまくいかず、わずか12人くらいで年間7000人235クラスの子どものたちとところで行っている。図書館司書のみなさんも時間があるときに見学に来てくれているので、みなさんも見学に来ていただけると嬉しい。

会長：この資料を見るとすごい回数をこなされているのと、学校側の受け入れ体制もしっかりしていることが窺える。それでは、報告事項ということで事務局のほうから順次お願いする。

課長：まずは市立図書館の一部業務委託について述べる。次は予約資料の受け取り窓口の設置ということで、国分寺駅のツインタワー西棟に公益フロア cocobunji プラザと、国立駅の高架下に2つの市民サービスコーナーができる。こちらのほうで予約図書

の受け渡しをどちらも5月から行う。年間に cocobunji が5～7万冊までいくと換算しており、国立のほうは2万冊と換算している。次は利用者懇談会について。

事務局：本多図書館は毎年2回利用者懇談会を行っている。話題になったのは、西国分寺の駅周辺での図書館の受取窓口とか、西国分寺駅周辺に図書館がほしいという希望があった。そういった希望を受けて来年度に向けてこちらも動いているが、国分寺駅周辺に図書館の窓口を作るとというのが要求の主な部分となっていた。

事務局：恋ヶ窪図書館は汚い本が多いとか、委託になって開館時間は延びないのかななどの意見をいただいた。

事務局：委託に関する意見をいただいた。子ども読書活動推進計画の関係につき、子どもだけでなく大人向けの講演会もやってほしいという意見もあった。レシートの字が小さいので文字を大きくしてほしいなどの意見もあった。

事務局：リクエストをしてメールの連絡がくるのがスピーディーになったというお話と、区内の図書館との違いのお話と、英語の本がもうちょっとあるといいという意見があった。

事務局：図書館での催しものを地域の回覧板でお知らせできないかという意見があった。自治会との連携を模索し、地域とのつながりを大切にしながら今後の事業を進めていきたいと思う。

課長：続いて④で子ども読書活動推進計画について述べる。総合ビジョンと教育ビジョンがあり、かつては10年単位でやっていたが、市長の退任の時期に合わせたほうが、プランと実効性と責任ということが一致するのではないかということで、時代の流れが早く、10年前に10年先のことを考えるというのがやりにくくなっている状況にある。短い期間のほう柔軟で実現可能な計画を立てられるのではないかということで、前期4年後期4年と短くなっている。ビジョンの流れの周期を合わせるのも必要ではないかということで、今の二次計画は今年度で終わり、来年度30年度からまた5年というつもりでいたが、総合ビジョンと教育ビジョンの終わりも合わせるような形で31年度からに計画を少しスライドした方がよいのではないかと、現在、部の中で調整をしている。4月から委託の体制になるので、正規職員が減るので人数が変わっていく中でどのような実現可能な計画が立てられるか検討している。

会長：報告事項1番から4番までまとめて報告していただいたが、このなかで宿題はありますか。さきほど並木図書館の自治会との協力というのはすごくいいことかなと思う。それぞれの図書館はそれぞれの地域で特徴を出しながら進めていくというのは大事なことなので、ユニークな地域づくりにつながると思う。利用者懇談会を次へのステップの場として生かしていくのに意義がある。

委員：自治会の回覧板のことで質問がある。新着図書報告を回覧板に入れてほしい。これからの町づくりは図書館も一緒になって考えていくのがいいのではないか。

会長：これからの図書館は委託ではできない仕事を職員がいかんにしていくかということが

大事になってくるので、ご近所づきあい、地域の付き合いは委託の職員ではできないので市の職員が出向いて協力者を増やすというようなことは図書館の職員でないとできないので、そういうふうなつながりを広めていくのは大事だなと思う。